

1 麦類の生育状況と今後の管理について

本年産は播種後の低温、乾燥が続き生育が遅れていましたが、その後の降雨、気温上昇により平年並みに近づきました。しかし、ビール大麦では、播種時期や圃場条件によって出穂期がばらついています。

今後の気温は高い予報のため登熟が早まると予想されます。今後の大雨に備え、明渠の点検・補修を行いましょ。麦の生育を良く確認し、赤かび病の防除、収穫作業を適正に行い、高品質麦の生産に努めましょ。

(1)ビール大麦

発芽勢の確保のため、適正な収穫作業を行いましょ。

◎早刈り厳禁

収穫適期：8割の穂首が90度以上曲がった頃（穀粒水分25%以下）

生育ムラがある場合：収穫日を通常の生育よりも1～3日遅らせるか、刈り分けを行いましょ。

◎適正な収穫作業

コンバインの掃除を徹底的に行いましょ。 回転数は稲よりも1割遅くし、裂皮や剥皮が発生しないか確認しながら作業しましょ。

(2)小麦

圃場を観察し、防除適期を逃さないようにしましょ。

◎赤かび病の追加防除（2回目）

1回目散布（開花始め）の20日後に2回目の薬剤散布を行いましょ。

同系統薬剤の連用は避け、収穫前日数に注意して薬剤を選びましょ。

2 水稻育苗のポイント

(1)適切な浸種・催芽

- ・浸種は、積算温度100～120℃（消毒種子は120～130℃）程度で行ってください。
- ・低温備蓄種子はしっかり吸水させるため、浸種時間を1～2日長くとる。
- ・催芽は、28～30℃で18～20時間、ハト胸程度に均一になるようにする。

浸種時間の目安

| 種子 | 水温13℃の場合の浸漬日数(積算温度) |
|--------|---------------------|
| 未消毒種子 | 8～9日(100～120℃) |
| 消毒種子 | 9～10日(120～130℃) |
| 低温備蓄種子 | 9～12日(120～150℃) |

(2)適正播種量

播種は薄播き（箱当たり催芽粉130g）でがっちりとした苗を作りましょ。

(3)播種後の管理

徒長やムレ苗発生防止のため温度管理や、過剰なかん水に注意しましょ。

| | | 展開後1～4日(緑化期) | 5～15日 | 15日～ |
|------|------|---|------------------------|----------------------|
| 温度管理 | 日 中 | 18～25℃(30℃以上にしない) | | |
| | 夜 間 | 10℃(最低5℃以上) | | 5℃～7℃以上 |
| かん水 | かん水量 | 2日に1回 極度に乾燥した時以外は控える | 1～2日に1回 控え目のかん水に努める | 1日1回 午前中十分に |
| | 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・かん水量が多すぎると苗が徒長し、根の生育不良を招く。 ・低温時のかん水は午前中に行い、夕方のかん水は行わない。 ・夕方、苗箱の表面が乾く程度が最適です。 | | 晴れの日はたっぷり、曇りの日は控えめに。 |

(裏面あり)

3 いもち病の防除について

近年、7月の低温・日照不足によりいもち病の発生が各地区で確認されています。特に中山間地や移植時期の遅い「あさひの夢」で被害が増加しています。

いもち病の防除は、種子消毒や箱施用剤で予防効果が高く、本田で防除する場合は、発生予察情報（栃木県農業環境指導センター BLASTAM）を参考にして、適切な時期に実施することが重要です。

○いもち病に適用がある箱施用剤

（令和4年4月4日時点の登録）

| 農薬名 | 使用量 | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 |
|------------------|-------------|---------------|------|-----------------|
| ルーチンアドスピノ 箱粒剤 | 育苗箱1箱当たり50g | 播種時(覆土前)～移植当日 | 1回 | 育苗箱の上から均一に散布する。 |
| ブーンパディート 箱粒剤 | 育苗箱1箱当たり50g | 播種時(覆土前)～移植当日 | 1回 | 育苗箱の上から均一に散布する。 |

4 稲こうじ病の防除について

イネ稲こうじ病は籾に暗緑色の病粒を形成する病害で、この菌による被害粒の混入が確認されると農産物検査で規格外になってしまいます。病原菌は土壌で越冬するため、以前発生した圃場では防除を行いましょ。また、多肥栽培で発生が助長されるので、適正施肥を行いましょ。

○移植期の防除薬剤(ともにシメコナゾールを含む)

（令和4年4月4日時点の登録）

| 農薬名 | 使用量 | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 |
|----------------|-------------|------------|------|-----------------|
| トリプルキック 箱粒剤 | 育苗箱1箱当たり50g | 移植3日前～移植当日 | 1回 | 育苗箱の上から均一に散布する。 |
| モンガリット 粒剤 | 3～4kg/10a | 収穫45日前まで | 2回以内 | 湛水散布 |

※シメコナゾールを含む農薬の総使用回数は2回以内（移植前は1回以内）であることに注意。

※トリプルキック箱粒剤はウンカ類に登録がないので、別途イネ縞葉枯病対策を検討する。

※モンガリット粒剤を移植期に使用する場合、移植直後～10日が処理適期である。